

「鳴門わかめ」ブランド維持拡大に向けた新品種の開発

[研 究 課 名] 水産研究課（環境増養殖担当）

[共同研究機関] 里浦漁協，北泊漁協，北灘漁協

[研 究 期 間] 平成22年度～24年度

■ 研究の背景・課題・目的

- 近年，本県のワカメの生産量は，高水温化による養殖漁期の短縮や漁期後半の色落ち現象，生産者数の減少等によりピーク時の約4割の低水準に落ち込んでいます。
- そこで「鳴門わかめ」ブランドの維持拡大に向け，高水温環境に適応した新品種及び養殖技術を開発しました。

■ 研究成果の内容

- 鳴門市及び小松島市沿岸の漁場で養殖した結果，従来の鳴門産早生ワカメに南方系の鹿児島産ワカメを交配させた新品種の収量は，従来品種の1.3～1.5倍となりました。
- 新品種の品質は従来品種に近く，多くの生産者及び加工業者から，塩蔵ワカメ商品として利用可能であるとの評価が得られました。
- 新品種を既存の晩生品種と組み合わせて二期作養殖することにより，一期作養殖と比較して増産できることがわかりました。

■ 見込まれる効果

- ワカメ新品種は，色落ちの影響が少ない漁期前半に収穫できるため，経営の安定化及び「鳴門わかめ」の増産が図られます。
- 新品種は，年末から年明けに出荷する新物商品としての利用も見込まれ，現在，関東地方で新物市場を占有している三陸ワカメに対抗できる新商品として期待されます。
- 一期作目の早生種苗に適した新品種の開発によって，二期作養殖への展開・普及が見込まれ，既存漁場の有効活用が図られます。
- 新品種の養殖には，種苗業者がフリー配偶体による種苗生産技術を導入する必要があります。この生産技術の普及により，「鳴門わかめ」全体の品質向上も期待されます。

「鳴門わかめ」ブランド維持拡大に向けた新品种の開発

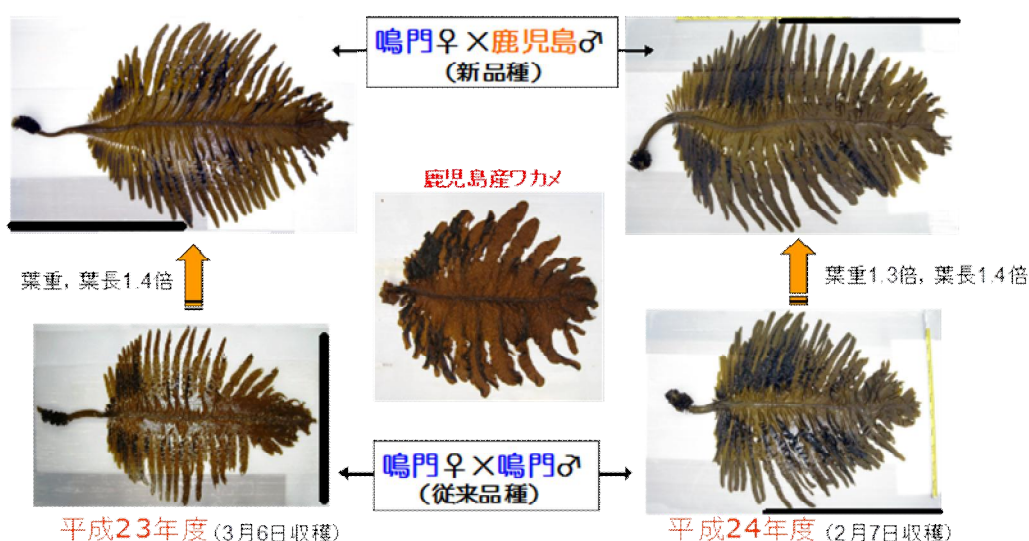
従来の鳴門産早生品種より、さらに収量アップが望める新品种を開発

開発の背景

- ・ 本県ワカメの生産量は、海水の高水温化により養殖漁期の短縮や漁期後半の色落ち、生産者数の減少等によりピーク時の約4割に減少。
- ・ 「鳴門わかめ」ブランドの維持拡大に向け、高水温環境に適応した新品种を開発。

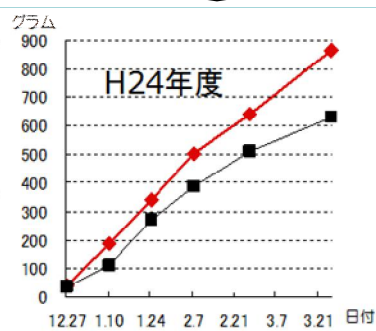
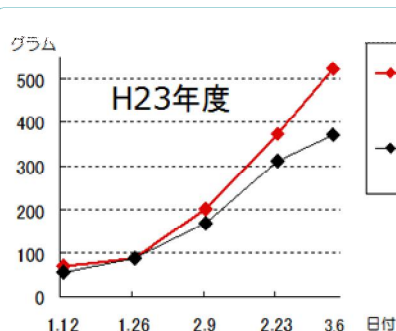
研究成果の内容

- ・ 「南方系鹿児島産ワカメ」との交配により、従来の早生品種より生長を改善
- ・ 品質面は従来品種の特性を受け継ぎ、実用可能



新品种のほうが生長が優れていた！

導入メリット



＜養殖期間中のワカメ葉重の推移＞

- ・ 収量: 従来品種の**1.3～1.5倍**
漁期前半に収量確保
- ・ 品質: 従来品種に近く
塩蔵ワカメとして利用可
- ・ 晩生品種と組み合わせた
二期作養殖が可能

生産者の皆様へ

- ・ 潮流や波の影響が大きい沖合漁場では、さらに品質が向上します。
- ・ 収穫適期は2月中旬頃までですが、漁場によって見極める必要があります。
- ・ フリー配偶体による種苗生産技術が必要となります。

問合せ先 水産研究課(環境増養殖担当)
電話 088-688-0555